

## 第 16 回若手研究者発表会レポート

立川 公子（武蔵野大学）

第 63 回大会の前日（2010 年 10 月 29 日）に千葉大学内の松韻会館で行われました「第 16 回若手研究者発表会」についてご報告します。

今回は、3 名の方に研究発表をしていただきました。まず初めに、中崎恭子さん（武蔵野大学大学院）が「仮眠と音環境に関する研究」という題目で、次に北村真吾さん（国立精神・神経医療研究センター）が「日周指向性による睡眠恒常性維持機構への修飾」という題目で、最後に井澤修平さん（労働安全衛生総合研究所）が「唾液中コルチゾールを用いたストレス研究」という題目で発表して下さいました。様々な分野で研究している若手が集まる場であったため、発表者の方全員が研究のバックグラウンドから最新の成果まで、丁寧にお話して下さいました。

このたびの若手の会への参加者は、台風が近づいている中、約 30 名にものぼり、大変盛会となりました。多様な研究領域の視点から活発な質疑応答が行われ、発表者も今後の研究への有益な示唆が得られたことと思います。また初の試みとして、ご参加いただいた方に「若手の会に参加された感想やご意見」や「今後の「若手の会」に関するご意見やご提案」についてアンケートを行ったところ、12 名の方がコメントをお寄せくださいました。今回初めて参加して下さいました方達からは「個人的にはどれもなじみの低い分野だったが、測定方法をはじめ基礎的な部分の説明を詳しくされていたので大変分かりやすく勉強になった。」、「なごやかな雰囲気や質問や意見もたくさん出ており、とても興味深い会だった。」といった感想を聞くことができました。さらに今後の展開については、関心のある研究分野や発表スタイル等について積極的な提案をして下さる方も多くいらっしゃいました。お寄せ頂いたご意見・ご提案をもとに、今後の運営について検討を行い生かしてまいります。ご協力くださった皆様ありがとうございました。そして、発表会後の懇親会ではそれぞれの研究室の状況や学生生活などを話題に参加者間の交流が深められ、非常に有意義な会となりました。最後になりましたが、本会の開催に際して、大会長の岩永光一先生には会場の利便性をも御配慮いただきました。また、石橋圭太先生や千葉大学学生の皆さんには大会準備のお忙しいなか多大な御協力をいただきました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。